ISSN 0917−4729

北海道立北方民族博物館 Hokkaido Museum of Northern Peoples

彫　　刻

イヌイト
カナダ・バフィン島
高さ　24.3cm

北方民族博物館だより
— 第14号 —

「新収蔵資料展・1　Northern Collection」について

北方民族博物館が開館して、おかげさまで4年目をむかえることができました。博物館では、北方民族の資料を精力的に収集してきました。また、網走管内湧別町において3ケ年にわたり発掘調査をつづけ考古資料を収集してきました。

今回これまで北方民族博物館がおこなってきた資料収集活動を紹介する意味で、新収蔵資料展を開催いたしました。なお、今回の新収蔵資料展では、平成3年度、平成4年度に収集した資料を紹介しました。

北方民族博物館の資料収集活動について

博物館の活動は、常設展示や特別展示などの「展示」、講座や講習会の開催や出版活動などの「普及活動」、発掘や北方文化研究にかかわる「調査研究」、調査研究の基礎となる「資料収集」の4つが大きな柱になっています。また収集した資料の保管も行なっています。

これらの活動のなかで「資料収集活動」は、調査研究とともに、博物館ではもっとも重要なものであると位置づけています。

平成3年度・平成4年度の資料収集活動

民族資料は、平成3年度には北西海岸インディアンのボタンブランケットやサハリン・アイヌの木偶などを、平成4年度にはサミの衣服やイヌイトの桶(おけ)などをあわせて 219点収集しました。

考古資料では、湧別町川西遺跡での発掘調査において、2ケ年で3253点の資料を収集しました。

映像資料は32本収集しました。収集した映像資料の一部は、編集をして情報普及室でご覧いただいています。

また、この他に道内外の多くの方から資料の寄贈を受けています。

新収蔵資料展の展示

新収蔵資料展では、平成3年度、平成4年度に収集した資料のうち 114点の資料を、おおまかに地域等にわけて展示しました。

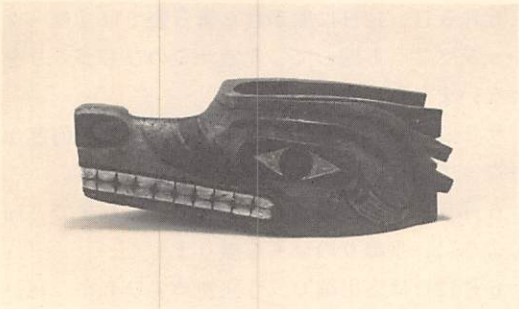
平成3年度に収集した資料についてはこれまでにも詳しくご報告していますので以下には、平成4年度に収集した資料を中心にご紹介します。

◇サミの資料

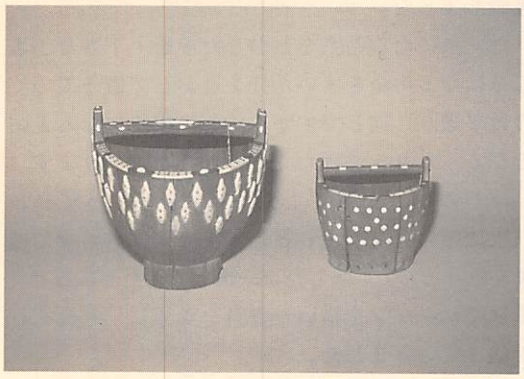
展示したサミの資料はすべて、ニューヨークのファッションスクールが所蔵していたサミの資料です。1938年にノルウェーで収集したというデータがついています。大切に保管されていたのか、とても色あざやかです。

◇北西海岸インディアンの資料

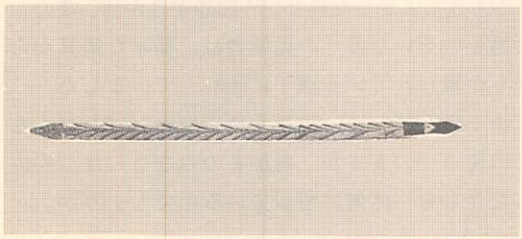
このコーナーに展示したのは、北西海岸インディアンのスプーンなどです。このうち平成4年度に収集したのは鯨骨製の銛(もり)先です。かえしの数が多いことから、儀礼用に使われたものかもしれません。



北西海岸インディアン（ヌートカ）の仮面



グリーンランド・イヌイトの桶



北西海岸インディアンの銛先

◇亜極北地帯のインディアンの資料

すべて平成３年度に収集したもので、イロクォイ・インディアンのガラガラやクリー・インディアンのパイプなどを展示しました。

◇イヌイト／アリュートの資料

ここではイヌイト（グリーンランド）の桶や、様々なナイフ、浮袋の栓などを展示しました。写真の資料は地リスの毛皮で作られたパーカです。

◇サハリン、ロシア沿海洲の資料

サハリン・アイヌやウイルタの木偶とともに、ナーナイに伝えられた中国の民間信仰の神々の名を赤い布に記した「ミオ」を展示しました。

◇考古資料

オホーツク文化の石器、鏃（ぞく）、土器、有孔（こう）円盤等を展示しました。

◇寄贈資料

数多く寄贈していただいている資料のうち、アイヌの仕掛け弓の失覆筒とウリチのシャマンのかぶりものを展示しました。

また、会期中の５月14日に開催した小中学生を対象とした土曜セミナーでは、新収蔵資料展で展示していた北西海岸インディアンのオオカミの仮面を紙で作ってみました。展示資料そっくりの出来映えに参加者は満足そうでした。

（学芸課　笹倉いる美）

○平成６年度第１回講習会

ワークショップ　1

講師／青柳文吉・笹倉いる美（当館学芸員）

色とりどりのビーズは、古くから世界各地の人びとに愛用されてきました。北方地域では、とくにインディアンやイヌイトの間で、衣服やバッグの飾り、装身具として使われています。

５月22日と29日の２回にわたって行なったワークショップでは、インディアンのビーズワークを体験しました。

インディアンのビーズワークには大きく分けて、ビーズを織り込む方法と、連ねたビーズを皮や布に縫い付けてゆく方法とがありますが、本講習会では前者のビーズ織りでした。１回目はビーズ織りの基本的な技法を学びながらブレスレットに、２回目では応用編としてイアリングづくりに挑戦しました。

織り方としては、ビーズルーム（織り機）に張られたたて糸に、あらかじめビーズを通しておいたよこ糸を渡してゆくという工程を繰り返します。その過程で模様を出すために４、５種類ほどの色ビーズを使いわけてインディアン独特の模様を描き出します。

受講者にはあらかじめ模様のパターンを用意しておき、それにそって模様を織り込んでいただきました。ビーズの色を間違えないようにという気遣いもしながら、直径２㎜足らずのビーズを細い針先で拾い上げる作業は大変根気のいることだ、ということを実感した講習会でした。できあがったものは、それぞれの色使いが反映されて受講者には満足のゆくものであったようです。おもちゃや装飾品、装身具として、ビーズは私たちの生活の中でもとてもポピュラーなものですが、今回の講習会は新たな利用の発見になったことと思います。

○平成６年度第２回講習会

ワークショップ　2

講師／青柳文吉・笹倉いる美（当館学芸員）

６月５日、12日に開かれた講習会では「ワークショップ２」と題して、北欧サミのひもづくりを行ないました。

サミのひもづくりは、当館でこれまでも何度か行なっており、大変人気のある講習会です。

６月５日は入門編ということで、これまでと同じように、平織りのひもを織りました。

６月12日は応用編で、今回初めてひもに、緑、青、赤の糸がななめに入る模様を織り込むことに挑戦しました。

たて糸になる毛糸をとおした筬（おさ）を上下させ、よこ糸になる毛糸をまいた杼（ひ）をとおして織っていくのは平織りと同じですが、これに模様になる毛糸をひろったり、さげたりする作業が加わります。

はじめは、講師の「次は赤糸をひろって」、「次は緑糸をさげて」という掛け声にあわせて模様を織りこんでいましたが、慣れてきたところで、模様のパターンを描いた資料を参考に、それぞれで織っていきました。

参加者からは、おもしろかった、うまく作ることができてよかった等という感想がきかれ、また、会場をのぞいた多くの見学者は、簡単な道具からひもが織られていく様子に感心していました。

サミの人びとは、靴ひもや揺籠（ゆりかご）のしばりひもなどに使っていますが、参加者のみなさんは、完成したひもを一体何に使っているのでしょうか。

本シンポジウムは、川崎市市民ミュージアム・（財）下中記念財団・ニューズレター映像と生涯学習／博物館の共催で、川崎市市民ミュージアムを会場に行なわれました。

シンポジウム『動く映像とミュージアム』

6.25～26　於：川崎

博物館・美術館あるいはその他の様々な生涯学習の場において、動く映像の利用が益々盛んになりつつある今日、現場では制作、収集、保存・管理、活用などに関して多くの課題を抱えています。ここでは新しい実践的な応用としての「博物館映像学」の提唱と、同じ課題をもつ施設や人のネットワーク作りを呼びかけ、盛りだくさんの内容が展開されました。第一部は「動く映像　利用の現状と将来展望」として、海外の先進的な利用に関する基調報告と国内の事例報告、第２部はワークショップとして「集める」「見せる」「作る〈博物館スタッフ〉・〈外部委託〉」の分会が、第３部では「博物館と映像による動体記録保存」の講演とパネルディスカッションが行なわれました。

今回参加することにより、様々な情報や知識を得るとともに、映像に関して博物館が何をすべきかについて改めて考え直す契機となりました。このような内容での大規模なシンポジウムは初めてのことと思いますが、博物館関係者を中心に映像にかかわる制作者、研究者、技術者など 200名をこす参加者があり、今後の発展が楽しみな分野であることも確信しました。（学芸課　齋藤玲子）

Q　常設展示の最後のコーナーにある石の彫刻は、どのような歴史や意味をもつものなのでしょうか（表紙写真参照）。

A　展示されているその他の資料からもおわかりのように、イヌイトの文化には道具類や儀礼に関するものなど、セイウチの牙（きば）や木、石を素材とした多くの彫刻が見られ、出土遺物からも数千年の歴史をもつことが知られています。

ご質問の資料は、カナダのイヌイトが制作したもので、凍石、蛇紋岩、玄武岩などが主な素材となっています。現在作られているこれらの彫刻は、1949年頃Ｊ．ヒューストンという美術大学で学んだ経験をもつカナダ人によってその芸術性を見出だされ、政府やハドソン湾会社、カナダ手工芸組合の保護奨励により欧米で流通するようになった、いわば商業的な芸術品です。しかし、彫刻をはじめとする工芸品の制作はイヌイトの経済を支えるだけではなく、伝統を継承し、民族としてのアイデンティティを表現するものともなっています。

近年、民族芸術の代表的なものとして日本でも紹介されるようになり、本年は北海道立近代美術館など各地の美術館等で「イヌイット・アート」の巡回展も開かれています。（学芸課　齋藤玲子）

第８回特別展

あそび・ゲーム・おもちゃ

平成6年7月26日(火)～8月28日(日)／休館日　月曜日

観覧料

一　　般	高校生・大学生	小学生・中学生
250(200)円	80(50)円	50(30)円

かっこ内は10人以上の団体の場合

世界各地には、子どもから大人までが楽しむ様々な〈あそび〉〈ゲーム〉〈おもちゃ〉があります。それらは、人びとの交流や交易をつうじて伝えられたり地域や民族の間で独自の発達をとげたものなど、それぞれに歴史や社会的な意味をもっています。今回の特別展では、ぬいぐるみや人形とその製作工程、こま、やじろべえ、ままごと道具、盤上ゲーム、サイコロ、カード類などの展示をとおし、北方民族を含めた世界各地のあそび・ゲーム・おもちゃの特徴や共通性を紹介します。

News

執筆者ならびに出版社から贈呈を受けた書籍（4月～6月）

道都大学　『道都大学紀要　教養部第12号』　1993

岸上伸啓ほか編　『生命の織物』　女子パウロ会　1993

成田修一　「近世の蝦夷語彙『蝦夷語』篇」、「同『南北蝦夷地魯西亜国　話通言』篇」、「同『後方羊蹄於路志』篇」　私家版　1986、1988、1991

成田修一　『蝦夷地図抄』　沙羅書房　1989

宮良高弘編　『北の民俗学』　雄山閣　1993

ポロニカ編集室　『ポロニカ　93(4)』　恒文社　1994

神沢利子　『タランの白鳥』　福音館書店　1989

神沢利子　『ヌーチェの水おけ』　ポプラ社　1970

神沢利子　『ヌーチェの冒険』　理論社　1966

主な来館者

4/26 北方四島ビザなし交流一行95名

4/27 ロビン・B．ディクソン氏、ロバート・J．ブラワー氏（カナダ海洋水産庁）

4/28 横路孝弘氏（北海道知事）

6/5 杉岡昭子氏（財団法人札幌国際プラザ専務理事）、原島正衛氏（北星学園大学講師）他1名

6/15 都東烈氏（釜山東義工業専門大学教授）夫妻

6/30 和久洋三氏（童具開発研究所「和久」主宰）他1名

観覧者動向　4月～6月

	常設展示
4月	1,317名
5月	4,737名
6月	4,387名

みんぞくこうこはくぶつかん in Hokkaido（4月～6月）

4/1 「北の発掘・最前線」シリーズ毎週金曜日掲載中／D(タ)

4/5 幕別町教委がムックリの伝承者安東ウメ子さん演奏のCDを制作／Yほか

4/25 フィンランド・ロバニエミ市の北極圏センターでアイヌ文化展開催中。アイヌ民族博物館（白老町）との交流実現／D(タ)

4/30 新宿にアイヌ民族交流の場・料理店「レラ・チセ」オープン・勉強会、歌の公演も／D

5/22 サハリン・アイヌ語の伝承者・浅井タケさんを悼んで／AS

5/22 アイヌ民族の伝統様式で結婚式上士幌のチセで再現／Y他

5/24 北海道ウタリ協会編集のアイヌ語テキスト完成・希望者にも有料で配布／M他

6/1 アイヌ民族の研究者「萱野茂の世界」 /4まで4回シリーズ／AS

6/5 旭川で加納沖さんがアイヌの弦楽器トンコリ演奏会／D

6/14 北海道立アイヌ民族文化研究センターがオープン・文化の継承と発展を目的に／M他

6/19 上ノ国町で「コシャマインの戦い」慰霊祭／D他

6/27 シシリムカ二風谷アイヌ資料館（平取町）でアムール川流域の先住民ナーナイの彫刻家が収集した資料の特別展実現／D他

＊AS朝日新聞（道東北網版）
D　北海道新聞（オホーツク版）
M　毎日新聞（道東道北版）
Y　読売新聞（北網版）

複数紙掲載の場合は、扱いの大きい方を紹介しています。

その他の主な行事

5/5 「こどもクラフト工房」ではウイルタのやじろべえを作りました（下写真）。

6/18 土曜セミナー「野の草花に親しもう」を行ないました。

第9回北方民族文化シンポジウムのお知らせ

テーマ
『ツンドラ地域における人と文化』
日程：
11/8（火）　講演会
11/9（水）、10（木）シンポジウム
会場：網走セントラルホテル
＊詳細は当館までお問い合せ下さい

編集後記

前述の川崎市でのシンポジウムの懇親会で、松戸市の学芸員の方から「松戸はご存じですか」とご挨拶をいただいた。「はい」とだけにこやかに答えたが、自分は生まれも育ちも関東である。それでなくとも松戸市住民の意識が‘千葉都民’といわれるような環境であることは存じ上げている。網走でも首都圏の情報は常に入る。

もちろん先方に悪気はないし、自分も以前は世界が狭かった。あたり前のことだが、札幌を経て網走で過ごすようになり、東京がすべからく政治・経済・文化の中心だとする価値観を払拭されて、感謝している。

地方にいると、地元も他地方も中央も広く知りたいと思うものだ。（齋藤）

北方民族博物館だより
— 第 14 号 —
1994年7月20日発行

北海道立北方民族博物館
〒093 北海道網走市字潮見313-1
TEL 0152-45-3888